



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH

Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Show Rotary Cares・『ロータリーの心を』

1997～98年度・国際ロータリーテーマ／グレンW・キンロス会長

『ロータリーの原点』に立ち『新鮮な眼でクラブライフを』

1997～98年度・東京新南ロータリークラブテーマ／武下 朗会長

◎本日の例会 □卓話「オーストラリアでの貴重な経験」

8月29日／第525回例会

元派遣青少年交換学生 **塩屋 未来さん**

[95～96年度オーストラリア留学、ホストクラブ:SYLVANIA RC(D9750) スポンサークラブ:当クラブ]

◎先週報告 □ロータリー情報委員会報告(渡邊委員)「ゾーン」について

8月22日／第524回例会

「ゾーン」とはRI会長指名委員とRI理事指名委員を選挙するために、RI細則が定め、RI理事会が編成したRI地域内のクラブ集団のこと。これが1995年1月の規定審議会で改正され、同年7月以降日本は第1～第4ゾーンに編入され、ほぼ常時2名の理事をRI理事会に送ることができるようになった。

□親睦活動委員会報告(荒木副幹事)火曜会のご案内

9月火曜会を9月2日(火)17:30～全日空ホテル37Fアストラルにて開催いたします。パネラー宮本会員による「BE A FRIEND」のテーマでお話しをして頂きます。大勢の方々のご参加をお願いします。

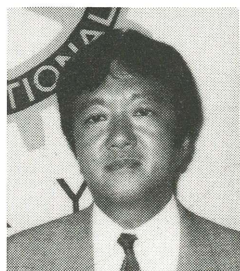
□慶事披露 ●お誕生日祝／谷 義一君(8月26日) ●100%出席／山下忠治君(8年)、後藤信夫君(4年)

□出席報告 ●会員71名・出席46名・欠席25名(出席規定免除者1名)

ビジター(6名敬称略・順不同)／佐谷戸正夫(大阪)、鎌田 進(東京目黒)、柴崎芳男(東京自由ヶ丘)、中島康裕、清宮貞雄(以上東京中央)、西山 巖(東京南)
ゲスト(1名)大山啓人氏(宮本会員ゲスト)

新会員のご紹介 (97年8月22日ご入会)

ツムラ ヤ マサ カス
圓谷 正和 君



生年月日 1951年8月12日生(46歳)

事業所 日本コーン・フェリー・インターナショナル(株)

役職 ヴァイス プレジデント

所在地 〒100 千代田区丸の内1-1-3

AIGビル7F

T E L 3211-6484

F A X 3211-7277

職業分類 人材紹介

住所 〒146 大田区南久が原1-7-7

T E L 5700-4845

推薦者 宮本正祥君、川鍋二郎君



8月22日 15件 51,000円
97～98年度累計 423,432円
多額のご寄付を有難うございます。

中島康裕(東京中央)／セミナーを楽しみに伺いました。入沢頼二／中央ロータリークラブのIM実行委員長の中島さん、副委員長の清宮さん、ようこそいらっしゃいました。IMのご成功をお祈り致します。渡邊 治／今年度2回目のクラブセミナーよろしくお願い致します。宮本正祥／圓谷さん入会お目出とうございます。谷 義一／忘れかけていた誕生日を思い出させて頂き、荒木さんありがとうございました。山下忠治／8年皆出席となりました。後藤信夫／皆出席のごほうびをいただきました。佐々木忠行／小湊先生、昨日はお世話になりました。おかげさまで快調です。岩瀬秀郎／お盆の休みも終わりました。この一週間はキツイ日々でした。鈴木重徳／在ニューヨークの娘のところへ遊びに行ってきた。伊部和夫／アメリカ、カナダで夏休みを過ごして来ました。関 征春／三鷹ではもう秋の虫が鳴いています。相澤成憲／残暑お見舞い申し上げます。河原勢自／馬場元会長のひとにらみです。セミナーよろしくお願い致します。馬場一廣／皆様ニコニコご協力ありがとうございました。

◎次週予告 □卓話予定 イニシエーション・スピーチ

9月5日／第526回例会

「遊びのこと、仕事のこと」

当クラブ会員 富士ゼロックス(株)常勤監査役 開発英基君

第2回クラブセミナー「変わるロータリー」(その2)

8月22日/第524回例会



山川ロータリー情報副委員長による第1回クラブセミナー(7月18日/第520回例会・テーマ「変わるロータリー」)について、時間的制約のため特にセミナー後半の「ロータリーの原点と最近の流れ」の部分が少々省略があったために、会員の中でその理解に混乱があった模様ですので、本日改めて第2回クラブセミナーとして、会員より質疑応答形式で前回セミナー内容の理解を更に深めて頂きたいとの第2回クラブセミナー開催の主旨説明に始まり、熱心な質疑応答に入った。

質問1. 河原勢自会員

前回セミナーでの「変わるロータリー」とは現に変わって行くロータリーを肯定的に認めたのでしょうか。

それとも急激に変貌して行くロータリーに警鐘を鳴らしたものと理解すべきでしょうか。

8月1日付週報のセミナー記事を読むと結論としてもよく理解できるのですが、前回のお話では時間的制約のせいか少々省略があったようで結論として「変わるのが正しいロータリー」と理解した人と、「変わってはいけない部分まで変えられようとしているロータリーに疑問をなげかけたもの」と理解した人の二通りあったと聞いております。重要な点ですので再度ご説明をお願いしたいと思います。

質問2. 関 征春会員

「変わるロータリー」のタイトルから受けたイメージは、過去ならず未来に対してであった。時代の変化に対応しながら職業奉仕にこだわらず、いまは社会奉仕をはじめ4大奉仕を通して人間社会に大きく寄与していくのがR Iの歴史でありビジョンではないだろうか。また、個々のロータリークラブの活動としてそのほうがわかりやすいのではないかと。そしてさらに21世紀に向けて常に「変わるロータリー」「変わっていくロータリー」ではないのか。

田辺ロータリー情報委員長

R I首脳が「ロータリーのイメージは変わろうとしている」と公言したことは、R Iがむしろ積極的に「ロータリーのイメージを変えようとしている」ことであり、それはロータリーのロータリーたる所以を捨て去ることに通じ、誠に由々しきことと云わねばならない。

R Iは、1970年代の後半以来ロータリーのイメージを変えようと、なし崩し的に種々の手を打ってきたようだ。R Iの3Hプログラム募金運動、ポリオ・プラスプログラムの推進を始めるとともに、一方、決議23-34の棚上げ、1992年の新声明の決議により、R I主導のWCS活動を可能にする下地をこしら

ロータリー情報委員長 田辺 賢三

え、去る6月のグラスゴー世界大会を機に、ライオンズクラブ国際協会との共同宣言や、ユネスコとの共同事項覚書締結に堂々と踏みこんだものと思われる。

ロータリーは創立以来、職業奉仕を中心とする個人奉仕を基本理念としており、従ってクラブの社会奉仕活動を認めた1923年のセントルイス大会宣言も「団体的奉仕よりも個人奉仕がロータリーの精神にかなっている」とし、又、社会奉仕活動の選択はあくまでクラブの自主的な決定によるべきものとしていた。

しかし、1992年に決議された社会奉仕の新声明は、明瞭にR I主導の世界奉仕や、他の諸団体との連携や事業を奨励しており、ロータリーの金字塔といわれた格調高い決議23-34は、事実上、棚上げ同然となったように見えるが、クラブとしてはその自主性を守っていくことがロータリーの基本精神と考える。

関さんは「ロータリーも時代の変化に即応しながら、人間社会に寄与すべきであり、21世紀に向けて常に変わるロータリーであるべきではないか」と問われた。関さんと同じようなお考えの方も少なくないのではないかと、私は推測している。

しかし、その主張は抽象論としては分かり易く、如何にももったものようだが、実態論としては果たしてどうか。

特にロータリーの場合は――

ポール・ハリスはその名著“*This Rotarian Age*”の中で次のように書いている。

「ロータリーは宗教でもなければ、その代用物でもない。それは昔から存在した道德観念の、現代生活、殊に実業生活における実践に他ならない。」

このような哲学に立ち、「超我の奉仕」を標榜し、「四つのテスト」を座右の銘とすることを薦める奉仕団体が他にあるだろうか。ロータリーは会員に自己研鑽を求める教育的性格をもつ団体なのである。自己の職業倫理を向上させることが、奉仕になるという奉仕理論をもつ奉仕団体なのである。こういうロータリーに対しては「時代の変化に応じて変われ」と求めることは、ロータリーが因って立つ理念を変えようというようなものではないのか。

去る6月、R I会長とライオンズクラブ国際協会会長が共同宣言に調印した。奉仕の決意を述べたものであるが、その内容を読んで驚いたことがあった。両クラブの行った偉大な奉仕事業として、ライオンズクラブは、失明の治療と予防を目的とする「視力ファースト事業」をあげたのはよいが、R Iは、ポリオ・プラスプログラムを挙げていたことである。We serveをモットーをする社会奉仕団体であるライオンズクラブと同じ基準でロータリーの偉大な奉仕事業を挙げるのは間違いではないか。

ライオンズも他の多くの社会奉仕クラブも、それぞれに自分の生き方に従って社会に貢献をしている。立派な団体であるロータリーは自らの基本理念を固守し、何もイメージを変えるべきではないと思う。

(次週に続く)

東京新南ロータリークラブ

会長：武下 朗 副会長：山下忠治 幹事：渡部一元
〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

<会報委員>

新保 國彦、荒木 昭文、廣瀬 哲久、
青野 信次、宮川 弘信、開発 秀基、
田中 武、小杉 眞史、川鍋 二郎、
立林 英昭、吉田 用親、村山 公士
(編集担当順)